土佐あちこち

マルシェと市

「マルシェ」。フランス語で市場を意味する。

カラフルな食材が並びパリの街並みに溶け込んだマルシェを映画やテレビで見かける。「市場」と呼ぶより数段おしゃれに感じるのは、語感だけでなく、頭に残る風景にあるのかもしれない。

土佐市の野菜ソムリエグループが、地元の日曜市で「土佐マルシェ」と銘打ち、月1回の営業を始めた。自分たちで作った野菜に加え、コーヒーや焼き菓子も並べ、若い世代に足を運んでもらう工夫を凝らす。

市の魅力は、新鮮な地場野菜などが低価格で並んでいること に加え、スーパーにはない作り手と消費者の対面交流だ。しかし、双方が次第に高齢化し、出店数も減って、往時の活気はない。

そんな中で、40代が多い野菜ソムリエメンバーによる出店の意義は大きい。若い世代の感覚や専門知識を生かして、地産地消の推進や市民交流の場づくりに貢献できる。

「将来年を取った時には、日曜市が生きがいになるかも」。あるメンバーの意気込みが印象的だった。

パリのマルシェと土佐市の日曜市。規模も知名度も違うが、市民が紡ぐ生活市に変わりない。

（土佐・五十嵐隆浩）